

BYOD環境の構築事業とその支援体制の強化

情報端末必携化の背景

教員養成課程において
ますます求められるICT活用能力



- ICT化・グローバル化への対応
 - ICT活用能力：教員志望の学生が在学中に培う能力のひとつ
 - 第二期教育進行基本計画 → 協働型、双方向型授業
 - ICT環境の活用 → 主体的な学び
 - 教育実習や教員採用試験、初任者教育においても、ICTの活用が謳われている。
- ICT環境の整備
 - 情報端末必携の検討を実施。

大学の情報端末を用いた授業のこれから



BYOD実施に至るまで

- 学長諮問
- 学内委員会で調査、答申の作成
- 調査： 在学生教職員アンケート、先行実施大学訪問
- PC必携検討WGの立ち上げ
- 仕様の決定
- 課題の整理
 - PC必携の趣旨を説明、経済的配慮、授業での積極的な利用、環境整備（電源・ネットワーク）、ライセンスの整備

必携端末について Cont'd

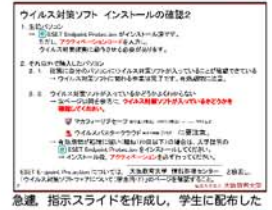
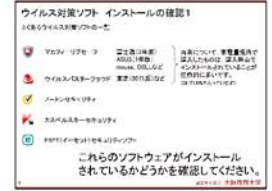
PCセットアップ

- 必修授業でのセットアップ（点検）を実施
→ Office・ウイルス対策ソフトのインストールに時間を要する。

実例：ウイルス対策ソフトの導入
授業での指示「自身のノートパソコンにウイルス対策ソフトウェアがインストールされていない場合や、試用期間が短いものがインストールされている場合に、大学配布のウイルス対策ソフトウェアをインストールすることを推奨する」

学生は、自身が所有しているPCにウイルス対策ソフトがインストールされているかどうか判断できない
(∵PCに関する基本的な知識不足)

ソフトウェア同士での衝突事故多発



点検届

- 学生自身の所持端末について、学生自身での自己点検を義務付ける → 所持端末の調査へつなげる
→ ICT教育支援ルームを活用、書類不備等への再提出を促す

必携端末の活用

無線LANの強化

- 学内無線LANの 802.1X認証を導入
- 講義室内での無線LAN APの増設、WLCの導入

ICT基礎a

- 「情報機器の操作」に代わり、全学必修授業へ
- コンピュータを活用したグループワークによる作品制作
- 学習管理システム (Moodle) を利用した授業展開 (Web出席, Webテスト, 相互評価, 資料電子化)

Progress (オンライン英語運用能力テスト)

- 従来のコンピュータ教室での実施 → 必携PCを活用も視野に
→ 1回生受講対象者の約51%は必携PCを活用

活用の支援 → ICT教育支援ルームの活用

- 主に学生スタッフによる運用 (学生スタッフ12, 教職員2)
- セットアップ支援による利用者対応 (特に4月時)
→ 質問対応実績：437件, 210時間53分 (4-6月)
→ 利用者にとどまらず、学生スタッフのICT活用力・コミュニケーション能力の向上に寄与

必携端末について

柔軟な受け入れが可能な端末の仕様

特定の機種について言及せず。

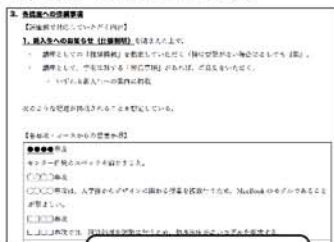
ハードウェア

- 無線LANがつながる
- バッテリーが5時間以上持つ (カタログ値)
- ハードウェアキーボードがある

ソフトウェア

- Win 8.1 and later or OSX Yosemite and later
- Office (Word, Excel, PowerPoint) が使える (最新バージョン)
- ウイルス対策ソフトが入っている

基本仕様



各専攻独自仕様

Officeライセンス

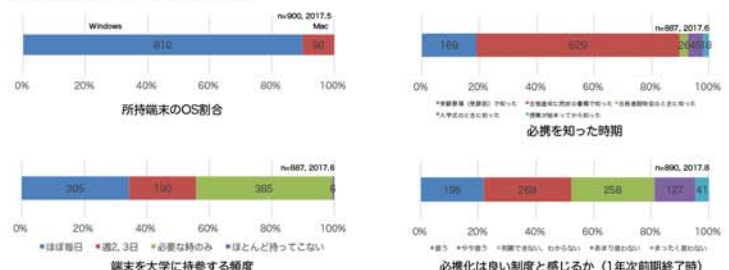
→ 内田洋行の「学生向けMicrosoft Officeライセンス特別プラン」を利用 (包括契約には至らず)

ウイルス対策ソフト

→ 学生用に「ESET Endpoint Protection」を導入 (年間契約)

各種調査結果

点検届、ICT基礎a中間アンケートおよび期末アンケート集計より抜粋 (2017年度の1回生を対象に実施)



- 一定の成果はあるものの、初年次における必携の必要性を見いだせていない
→ FD等を通じて、教職員の利用機会の向上へ